

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム 木曾三川「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1番地		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	令和4年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2192200034-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和3年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がその人らしく暮らし続ける支援に向けてお一人お一人の思いや要望は何かと職員が把握することに努め、それぞれの利用者様のできる力を支え維持できるよう、日々の暮らしの中での楽しみや意欲を見出してもらえよう支援をしています。コロナ感染予防対策として様々な規制や制限がある中で家族様との面会は困難となりましたが家族様との関わりが途絶えないよう、施設内で行う季節の行事や利用者様の普段の暮らしぶり等を定期的にお便りや電話でお知らせしています。また、家族様アンケートやケアプラン原案についてなどご意見やご要望をいただく機会を設けています。ご意見等には真摯に受け止め次に繋げるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で地域や家族との関わりや外出制限のなかでも、利用者が生き生きと楽しんで生活できるようにしている。運動会、お祭り、敬老会等の季節に合わせたイベント、体操、塗り絵、パズル、カラオケ等で様々なレクリエーションを工夫して日々の活動に取り入れている。個々の力を活かした洗濯物たため、新聞折りや食事時の手伝い等が継続できるようにしている。認知症の人が迷子になった場合の協力、地震災害時に住民の一時保護所としての受け入れ、近隣の総合病院や介護施設とも協力体制を築きつつ、地域とのつながりも大切にしている。常勤で看護師がおり、医療処置や入浴支援を終末期でも可能な体制で看取りをしている。職員の希望で就業時間、夜勤の有無や休日の付与等に配慮している。常に「ありがとう」の言葉を伝え利用者で良好な関係を築いている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の下にチーム目標を立てユニット内で毎日唱和している。また、ミーティングや気が付いた時に利用者様本位のケアとなるよう職員に説明し日常の支援につなげている。	理念を基に、毎年ユニット毎にチーム目標を立て、朝のミーティング時に唱和し、意識して実践できるようにしている。年度末に振り返りと話し合いをしている。理念を記した用紙を配布し、再認識できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策としてボランティアの受け入れや保育園児との交流会を中止しており、利用者様が直接的に地域と触れ合うことはできていないが地域との繋がりが保てるよう連絡等を行っている。	小学校で認知症サポーター養成講座を実施し、地域の福祉推進委員として認知症対策への提案や会議に参加している。子ども110番の家に登録している。コロナ禍前は、中学校や特別支援学校の職場体験を受け入れていた。	コロナ禍ではあるが、地域との関わりやつながりができるように事業所の特性を発信され、できる範囲と手法にて更なる工夫に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとして小学生を対象に養成講座の実施や、認知症初期集中チームのメンバーとして、専門知識を活かした活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策として会議は見合わせているが活動報告や職員の異動、アクシデント報告を書面にてお伝えし、また、ご家族様、関係者の皆様のご意見を書面等でいただきサービス向上に活かすよう努めている。	書面会議としているが、事前に事業所の活動状況や事故状況等を送付し意見をもらっている。その意見をまとめて家族にも報告している。警察署員や消防署員から、その時に応じた情報や助言をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の書類等を市町村担当者に手渡ししたりして顔なじみの関係構築に努めている。実際の相談等も心易く行えている。	書類提出や感染症予防物品受領等で市に出向いた折に、事業所の実情を伝え協力関係が築けるようにしている。ケアサービス向上連絡会のメンバーとして勉強会や会議に参加し、情報を得ている。電話やメールで相談する場合もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施する中で具体的な行為についての学びを行う等、身体拘束をしないケアを意識して常日頃より取り組んでいる。	身体拘束廃止に関する指針を定め、委員会を開催し職員への研修を実施している。虐待の芽チェックリストで振り返り、隔月に啓発ポスターを作成し、職員が目につく場所に掲示している。行動を制止するような言葉遣いにも注意し、拘束しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者も職員も施設内外の研修に参加するなど、虐待防止に努めている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間予定してある勉強会にて、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち関係者と連携を取り支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は、利用者様・ご家族様の事情を踏まえた上での、十分な説明を行うよう心掛けご理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談窓口についての説明とポスターの掲示や、年に一度家族様アンケートを実施し要望の把握をするなど、日頃より意見の言いやすい関係作りに努めている。	ラインを利用した面会や玄関先でアクリル板を隔てて10分の面会であり、毎月、日頃の写真と近況を伝える手紙を送付し意見をもらっている。必要時は電話で聞いている。体重を知りたいの要望で便りに記載している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員とのコミュニケーションを図り、ミーティングや個人面談等で意見を言いやすい環境づくりに努めている。	毎月のミーティングや年に2回の管理者との面談で意見を聞いている。日常の業務時も意見が言える関係ができています。職員の意見でレクリエーションの物品購入や洗濯機、炊飯器、ミキサー等を買換えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員の個々に合ったシフト調整や労働条件に応じての諸手当の制度等、意欲的に働ける職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間予定に施設内外の研修を立て実施している。また、日常業務の中でケアの見直しや振り返りを行ったり、個人面談等で各自の力量を確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今は他事業所との直接的な勉強会は行っていない。ケアサービス連絡会には参加するようにして交流や学ぶ機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に必ずご本人の面談を行うことで思いの把握に努め、入所後少しでも安心できる暮らしとなるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に必ずご家族とも面談を行い、不安な事やご要望等をじっくり聞く時間を作り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症状の症状によっては、まずは正しい診断をしていただく為に専門医への受診を勧めたり、在宅ケアでのサービス利用等についてもお話している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様に対し感謝の気持ちや敬意を払えるよう「ありがとう」を言葉にして伝えることを意識して関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後もご家族様との絆が絶えないよう、来苑していただきやすい雰囲気づくりや利用者様の思いを代弁して伝えたりして、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時より馴染みの人や場所の把握に努め、ご家族様の協力もいただきながら関係が途切れないような支援を基本とするも、現状では外出自粛や面会制限もあり、難しい支援となっている。	携帯電話を持っている利用者に対しては、充電や電話をかける時に声かけを行っている。暑中見舞いの葉書やクリスマスカードを送る際、宛名の確認や代筆をしている。馴染みの理容院に定期的に来てもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様同士の関係性を見極めながら、孤立させないようにと他者との関りが持てる場面づくりに努めている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した際、特に長期入院による退所の場合はその後の経過を知るとともに必要に応じてご家族様の相談にも柔軟に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でお一人お一人の思いや意向の把握に努め、職員間で情報共有を図りできるだけ意向に添うよう努めている。	利用者に合わせた声の大きさや口調で、ゆっくり、はっきりと聞き、思いを把握している。居室や事務所で1対1で聞いたり、生活歴やアセスメントから把握する事もある。困難な人には、顔の表情や動きから推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様からこれまでの暮らしや生活歴についてお聞きし、そのことと現状を結び合わせる中でその方を把握していくことに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の「できること・できないことシート」を用いて客観的にアセスメントするとともに、日頃の状態を観察し情報共有することで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、全員のモニタリングを実施しケア内容の振り返りを行っている。また課題があったときはその都度意見交換したりご家族様に相談し計画書にも反映させている。	家族には、手紙や電話で要望を聞き、医師には訪問診療時に意見を聞いている。毎月全職員でモニタリング、隔月のADL等評価表、転倒転落アセスメントシート、センター方式シート等で確認し、必要時は見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は計画書に基づいたケア提供を実践し、職員間で情報共有を図り必要に応じて計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人様・ご家族様の状況や施設側の状況に応じて柔軟に対応することを心がけ実践している。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設が地域との関係づくりをすることで、利用者が安全で楽しめる暮らしを提供できるよう機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時や身体状況の変化時等、ご本人様やご家族様の希望を確認したり、連携についてご家族様に説明し安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	入居時に家族の希望で協力医に変更している。総合病院や専門医受診時は、職員が付き添い家族と合流し、医師から指示をもらっている。歯科の訪問診療や鍼灸師のリハビリを希望で利用する人がいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は常日頃より利用者様の体調について把握し、気づきを速やかに看護職に伝え、早期に医療的対応が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院医療機関も面会制限があり、特に利用者様の精神的負担が大きくなると予想されるため、早期に退院できるよう病院関係者との連携を密にするよう努めたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、終末期に向けたケア方針を説明するとともにご本人様・ご家族様の意向を確認した上で、かかりつけ医とも密に連携を図りながら支援に取り組んでいる。	入居時や状態に応じて利用者や家族に意向を確認している。重度化した場合は、医師又は看護師が家族に説明し意向を聞き看取りを行っている。家族の希望に応じて点滴や酸素吸入も対応し、看取りプランを立てて方針を共有し、家族と一緒に看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会の実施や日頃の応急手当の場面で直接職員へ指導し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時、水害時の訓練をそれぞれ年2回、様々な想定の下、職員と共に実施している。地域との協力体制を築けるよう機会あるたびにお話ししている。	出火元を変えた火災や夜間想定訓練を行い、実施後に課題や反省点を検討している。事業所は平屋建ての為、水害時の避難場所や移動法の検討もしている。地震時は住民の受け入れを自治会に伝えている。米、水やオムツ等の備蓄品は、水害に備え高い場所に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬いの心を持って接するよう心掛けている。また入浴や排泄時の声かけ等も利用者様の思いに添えるよう対応している。	接遇の勉強会やチェックシートで振り返り、自尊心を傷つけない言葉遣いや声かけに注意している。「ありがとう」の言葉を大切にして、敬いの気持ちを持って接している。呼称は〇〇さんで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話を大切にし、話しやすい環境づくりを心がけ、希望を出しやすい雰囲気づくりに努めている。日中はタイミングを見計らい、トイレや休息等の声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の気分や体調に合わせ行事などへ参加していただいている。個々の生活リズムを把握し思いに添った日々の暮らしが送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を活用し利用者様の好みのヘアスタイルや、その日の衣服選びがしやすいよう環境づくりに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助を行う際には、その方のペースに合わせメニューの説明をしながら行っている。利用者様に合った食器の選択をし自立支援に繋げている。また、土筆の袴取りなどを職員と共に行っていただいている。	プランターで育てた野菜や頂いた野菜を使い、利用者が希望する献立にしている。お絞りたたみ、食卓拭きや下膳等のできることを職員と行っている。利用者に合わせてスプーンの形状を変え、重い食器やすくいやすい皿を使用し、食卓の高さを調整する等で自力摂取ができるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量を記録し職員間で共有している。水分確保の声掛けの工夫や食事形態、調理法の工夫を行っている。ご家族様のご協力を頂き習慣となっている飲み物を施設でも飲んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後から就床前まで必要に応じて口腔ケアを実施している。個々の状態に適したツールを使用し、口腔内の衛生保持に努めている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録により排泄パターンを把握し、その方のリズムに合わせ、トイレ誘導・介助を行っている。他にはトイレにプレートを設置し場所の確認ができるよう工夫をし、排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄パターンに合わせてトイレ誘導し、立位困難な人には二人介助でトイレ排泄をしている。利用者の目線に合わせて「トイレ、→」の表示をし、パッドの種類を検討し自立に向けた支援をしている。オムツからリハビリパンツになった人がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や牛乳等の提供、水分摂取量の確認、腹部マッサージの実施、リハビリ体操参加への促し等、個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。また便秘による影響についても職員間で情報共有を図り支援方法を検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	タイミングを見計らって声掛けをしたり、入浴拒否時は無理強いしないなど、できるだけ希望に配慮し対応している。入浴時はお一人お一人、ゆったりと過ごすことを心掛け安全に配慮した支援を行っている。	希望のシャンプーやボディソープを使用し、湯温の調整、順番や同性介助にも配慮している。状態に合わせてシャワー浴、足浴、手浴や清拭をしている。ゆっくり話を聞いたり歌を歌ったりして楽しみな入浴にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態や意思を確認しながら、日中の活動と休息に配慮している。夜間は睡眠状態に合わせ、適時排泄介助や体位交換を行い安眠ができるよう努め、又、1日を通して、室温・採光・換気等にも配慮し適した環境づくりを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を介護記録のファイルに閉じ、職員が常時閲覧できる状態にしている。内容に変更があれば申し送り等で周知を図り理解を促している。服薬支援は職員2名と利用者様とで確認をし誤薬防止に努めている。状態に変化があれば職員から看護師へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	計算問題やパズル等、利用者様が得意な事や洗濯物の取り込み、新聞折りなどの作業などによりできる喜びや役割意識を持てるよう働きかけている。誕生日会開催などで日々の暮らしの中での楽しみが見出せるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策として外出は控えている状況ではあるが、近隣へのお花見や苑庭でのお茶会など外気に触れる機会を持ち気分転換を図っている。日常的にはゴミ捨てや洗濯物の取り込みを職員と共に行っている。	天気の良い日は駐車場で日光浴をしたり、近所の桜や彼岸花等の花を見に車イスの人も散歩に行っている。野菜の水やりや収穫、洗濯物の取り込み、ゴミ捨てや自販機で飲み物購入等、外気に触れる機会を作っている。	

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様との話し合いの中で、ご本人様の思いを尊重し対応している。また職員にもそれを伝えており、他利用者様とのトラブルが生じないよう配慮に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により、代弁してご家族様に用件をお伝えするなどして状況に応じた支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気候やその時の状況により外の景色が刺激となること等に配慮したり、リビング内のエアコンの風向や換気に配慮している。また、母の日などの写真を飾り、思い出づくりと共に居心地の良い空間づくりに努めている。	玄関やリビングには、季節に合わせた壁画や作品、イベントの写真等を飾っている。空気清浄機を設置し、日に3回の換気とテーブルやドアノブ等の消毒を行い、感染症予防の対策をしている。利用者が居心地良く過ごせるように席の配置も工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで気の合う利用者様同士の会話の仲立ちをしたり、テレビの近くに個別のテーブルを置きゆっくり観ていただけるようにと工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の動線に配慮したり、家族の写真や馴染みの物を置くことで安心して過ごせるよう利用者様の状態に応じた工夫を行っている。	馴染みのマッサージチェア、テーブル、TVや時計等を持ち込んでいる。家族写真、誕生日の色紙、自分の作品等を飾っている。利用者の動線に合わせて家具等の配置を変えている。新聞や本を読んだり、折り紙をしたりする人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室やトイレにはネームプレートを設置している。施設内は段差が無く自走される車いすでも十分に移動できるスペースを確保している。夜間のトイレ使用がスムーズにできるよう一部のトイレの照明をつけた状態にしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム 木曾三川「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1番地		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	令和4年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2192200034-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和3年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の下チーム目標を立てユニット内で毎日唱和している。また、ミーティングや気が付いた時に利用者様本位のケアとなるよう職員に説明し日常の支援につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染防止対策としてボランティアの受け入れや保育園児との交流会を中止しており、利用者様が直接的に地域と触れ合うことはできていないが地域とのつながりが保てるよう連絡等を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとして小学生を対象に、養成講座の実施や、認知症初期集中チームのメンバーとして、専門知識を活かした活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染防止対策として会議は見合わせているが活動報告や職員の異動、アクシデント報告を書面にてお伝えし、また、ご家族様、関係者の皆様のご意見を書面等でいただき サービス向上に活かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の書類等を市町村担当者に手渡ししたりして顔馴染みの関係構築に努めている。実際の相談等も心安く行えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施する中で具体的な行為についての学びを行う等身体拘束をしないケアを意識して常日頃より取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者も職員も施設内外の研修に参加するなど、虐待防止に努めている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間予定してある勉強会にて、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち関係者と連携を取り支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は、利用者様・ご家族様の事情を踏まえた上での、十分な説明を行うよう心掛けご理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談窓口についての説明とポスターの掲示や、年に一度家族様アンケートを実施し要望を把握するなど、日頃より意見を言いやすい環境作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員とのコミュニケーションを図り、ミーティングや個人面談等で意見を言いやすい環境づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々に合ったシフト調整や労働条件に応じたの諸手当の制度等、意欲的に働ける職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間予定に施設内外の研修を立て実施している。また、日常業務の中でケアの見直しや振り返りを行ったり、個人面談等で各自の力量を確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今は他事業所との直接的な勉強会は行っていない。ケアサービス連絡会には参加し、交流や学ぶ機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に必ずご本人様の面談を行うことで思いの把握に努め、入所後少しでも安心できる暮らしとなるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に必ずご家族様とも面談を行い、不安な事やご要望等をじっくり聞く時間を作り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症状の症状によっては、まずは正しい診断をしていただく為に専門医への受診を勧めたり、在宅ケアでのサービス利用等についてもお話している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様に対し感謝の気持ちや敬意を払えるよう「ありがとう」を言葉にして伝えることを意識して関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後もご家族様との絆が絶えないよう、来苑していただきやすい雰囲気づくりや利用者様の思いを代弁して伝えたりして、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時より馴染みの人や場所の把握に努め、ご家族様の協力もいただきながら関係が途切れないような支援を基本とするも、現状では外出自粛や面会制限もあり、難しい支援となっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様同士の関係性を見極めながら、孤立させないようにと他者との関わりが持てる場面づくりに努めている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した際、特に長期入院による退所の場合はその後の経過を知るとともに、必要に応じてご家族様の相談にも柔軟に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でお一人お一人の思いや意向の把握に努め、職員間で情報共有を図りできるだけ意向に添うよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様からこれまでの暮らしや生活歴についてお聞きし、そのことと現状を結び合わせる中でその方を捉えていくことに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の「できること・できないことシート」を用いて客観的にアセスメントするとともに、日頃の状態を観察し情報共有することで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、全員のモニタリングを実施しケア内容の振り返りを行っている また課題があったときはその都度意見交換したりご家族様に相談し計画書にも反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は計画書に基づいたケアの提供を実践し職員間で情報共有を図り必要に応じて計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人様・ご家族様の状況や施設側の状況に応じて柔軟に対応することを心がけ実践している。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設が地域との関係づくりをすることで、利用者が安全で楽しめる暮らしを提供できるよう機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時や身体状況の変化時等、ご本人様やご家族様の希望を確認したり、連携についてご家族様に説明し安心して適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は常日頃より利用者様の体調について把握し、気づきを速やかに看護職に伝え、早期に医療的対応が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院医療機関も面会制限があり利用者様の精神的負担が特に大きくなると予想されるため、早期に退院できるよう病院関係者との連携を密にするよう努めたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、終末期に向けたケア方針を説明すると共にご本人様・ご家族様の意向を確認した上で、かかりつけ医とも密に連携を図りながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会の実施や日頃の応急手当の場面で直接職員へ指導し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時、水害時の訓練をそれぞれ年2回、様々な想定の下職員と共に実施している。地域との協力体制を築けるよう機会あるたびにお話ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「ご利用者様」という事を常に念頭に置き、敬語を心掛け利用者様の言われる事に対してむやみに否定をしないよう努めている。トイレや居室での排泄介助時は戸を閉めるなどの配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話しかけやすい環境づくりに努め、ご自身の思いが話せるように日常から接している。選択肢を提示し利用者様が思いや気持ちを表出しやすいようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「〇〇しますが一緒にどうですか」などの声掛けを行いお誘いしている。表情・言動等利用者様の様子を見ながら対応している。できるだけお一人お一人の思いに添って過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪希望があった時又は必要と思った方には声かけを行い、訪問理容にて対応している。衣服の選択ができる方はその日着る服を一緒に選んでいただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや食通りの良さを考えながら味付け・盛り方・食器を工夫している。土筆の袴どりやおしぼりの準備等を一緒に行っている。できる方にはコップの下膳をしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々職員間で情報を共有し、食事形態・摂取量の把握に努めている。食べやすい高さにセッティングすることで自力摂取が可能となったり、工夫しながら水分や食事摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、必要に応じて口腔ケアを実施し口腔内の衛生保持に努めている。利用者様の訴えや、職員が異常を発見した時は看護職に報告し、訪問歯科の往診につなげている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の介護記録をもとに、個々の排泄パターンを把握し早めの声掛けやトイレ誘導を行っている。食事前の声掛けや就寝前のトイレ誘導、トイレでの立位介助、尿意便意の訴えがある時など、状況に応じて必要な支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操への参加を促したり、水分摂取量や食事摂取量もチェックしその時々に応じた対応を心掛けている。便意に合わせトイレに座っていただく。腹部マッサージ、ホットパック等を看護職と連携し行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間の決まりは設けているが、入浴の意思決定は利用者様の思いを優先している。入浴の声掛けもその方に応じて対応している。脱衣所・浴室内は室温調節や換気を行い、また個々に応じた湯温でゆっくりと入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活リズムを把握し、夜間の睡眠がしっかりとれるように、活動・休息の時間を設けている。年間を通して室温・湿度に配慮したり、個々の状況に応じて安楽な体位の実施や排泄介助等安眠へ向けての支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ、誤薬が無いよう服薬時にはできるだけ複数チェックを実施している。状態の変化に伴い処方変更時は看護職からの申し送りや、常に介護職員が確認できるように介護記録のファイルに薬情を閉じている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵やパズル、カラオケ等を楽しむ機会を作っている。個々の力に応じた役割支援として、洗濯たみ・新聞折・ゴミ捨ての同行など行っている。近隣の散歩や両ユニットで行う合同レクへの参加などで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候等を考慮し、苑庭でのお茶会、近隣の散歩、ゴミ捨ての同行、花や野菜への水やりと、個々の思いや状況に応じて対応している。外出支援に於いてはコロナ禍であるため、ご家族様や地域のとの協力も難しくほぼ行えない。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の思いを1番に考え、ご家族様と相談をしながらその方の力量に応じた支援を行っている。その支援については職員は自立支援の一つであると理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	オンライン面会ができるようにご家族様にご案内文を出したり、利用者様にご家族様宛に暑中見舞いを書いていただくなど、思いをお伝えできるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間を通して季節ごとのイベントの写真を飾ったり、利用者様の作品を展示して、共有の思い出作りをしている。採光や室温、換気や衛生面等に気をつけ居心地の良い空間となるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のテーブルの配置をその時の状況に応じて変え、利用者様の移動や各々の居場所の確保に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にご本人様が自宅で使用されていた馴染みの物を置かれたり、ご家族との写真、ご自分の作品や誕生会の色紙を置くなどして居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室や各トイレにはネームプレートを置き、場所をわかりやすく表示している。廊下やリビングは十分なスペースを取り安全に移動や行動ができるようにしている。		